

今回は抗がん剤の副作用の末梢神経障害について紹介します。



## ☆抗がん剤の副作用について～その7 ～末梢神経障害(しびれ)について☆

末梢神経は脳や脊髄から出て手や足の筋肉や皮膚などに分布し、運動や感覚を伝える“電線”のような働きをします。末梢神経には、①運動神経(全身の筋肉を動かす)②感覚神経(痛みや触れた感触などの皮膚の感覚などを感じる)③自律神経(血圧・体温の調節や心臓・腸など内臓の働きを調整)があります。

末梢神経障害は、これらの神経の働きが悪いために起こる障害のことです。主な症状は、「手や足に力が入らない」、「物をよく落とす」、「歩行やかかけ足がうまくできない」、「足先が垂れてつまずきやすい」などの運動障害、手や足が「ピリピリとしびれる」、「ジンジンと痛む」、「感覚がなくなる」などの感覚障害、「手や足の皮膚が冷たい」、「下半身に汗をかかない」などの自律神経障害などです。

抗がん剤による末梢神経障害は、投与後数週間で起きると考えられています。

### 末梢神経障害が出現しやすい抗がん剤

**タキサン製剤:**パクリタキセル(商品名タキソール) ドセタキセル(商品名タキソテール)など

**ビンカルカロイド製剤:**ビノレルビン(商品名ナベルビン)など

**白金錯体制剤:**シスプラチン(商品名シスプラシン), カルボプラチン(商品名カルボプラチン)

オキサリプラチン(商品名エルプラット)など



大腸がん治療に使用されるオキサリプラチンによる末梢神経障害は、投与してまもなく見られる急性の知覚神経障害と投与後数週間してから見られる遅延性の感覚神経障害の二つがあることが分かっています。また、繰り返し投与により、異常の期間や重症度も増加することが知られています。

末梢神経障害が出る可能性のある抗がん剤を投与している場合には、次のようなことにも注意しましょう。

- ・炊事などで冷水に触れずに、適温の湯を使用する
- ・低温熱傷を防止するためにカイロを長時間身につけない・ストーブのそばに長時間いない
- ・転ばないために身の回りにつまずきそうなものを放置しない ・滑りやすいカーペットを使用しない
- ・暖かい手袋や靴下で保温したり、手足の指を開閉し、末梢循環の改善を図る
- ・大きなもの、重いものを動かす際には、誰かに手伝ってもらう

末梢神経細胞の回復は著しく遅く、治療を止めても改善するまでに時間がかかり、しびれを伴う神経障害性疼痛をもたらすこともあります。神経障害性疼痛は、痛み止めが効きにくい痛みとしても知られていますので、末梢神経障害(しびれ)は軽いうちに対処することも大切です。

症状が出現した場合、漢方薬、ビタミン剤や鎮痛剤などで対応しますが、標準的な治療は確立されていません。病気が原因で末梢神経障害を起こすこともありますので、しびれの症状等もしっかり主治医へ伝えましょう。